ワクワクはこね温泉 第 10 回

「二ノ平温泉」

菊川城司
（神奈川県温泉地学研究所）

写真 1　上空から見た二ノ平温泉付近。
写真の中央から右側にかけてが二ノ平温泉です。中央から左上にかけてが小涌谷温泉、中央下部が宮ノ下温泉、底倉温泉の一部です。（撮影は 2005 年春、原田氏による。連載第 9 回「小涌谷温泉」と同じ写真の再掲です。）

■はじめに

箱根火山のめぐみによって生まれた箱根温泉について、シリーズでご紹介する 10 回目です。今回は、箱根二十湯のうち、二ノ平温泉のおはなしです。

二ノ平温泉は、箱根町二ノ平に湧出する温泉の総称です。二ノ平という名前の由来となった県道 723 号線に沿って拓けている小さな台地は、温泉街といった雰囲気ではなく比較的閑静なエリアで、箱根の中では比較的新しい温泉場です。藤田観光株式会社の経営する温泉テーマパークユネッサンや緑の村で利用されている温泉の大部分も二ノ平温泉に該当します（図 1、写真 1、写真 2）。

二ノ平という住所で見ると、早雲山から流れる須沢の強羅橋や須沢橋を境に右岸側が二ノ平、左岸側が強羅となります。また、南側に目を向けると、車沢左岸をユネッサンから遡って湯の花ゴルフ場の一部までの住所が二ノ平となります。これらの地域内の温泉が二ノ平温泉です。

前回の連載でも紹介しましたが、車沢沿いの温泉は、その成り立ちから考えると、まとめて小涌谷温泉のエリアとすることもできます。しかしながら、ここでは現在の住居表示と小田原保健福祉事務所の温泉台帳の区分に基づいて、所在地が二ノ平の源泉と利用施設を二ノ平温泉として紹介します。

ところで、二ノ平という地名の由来は何でしょうか。昔、箱根の浅間山に住む大蛇が退治された際に大きな尻尾を跳ね上げ、その最初の一撃

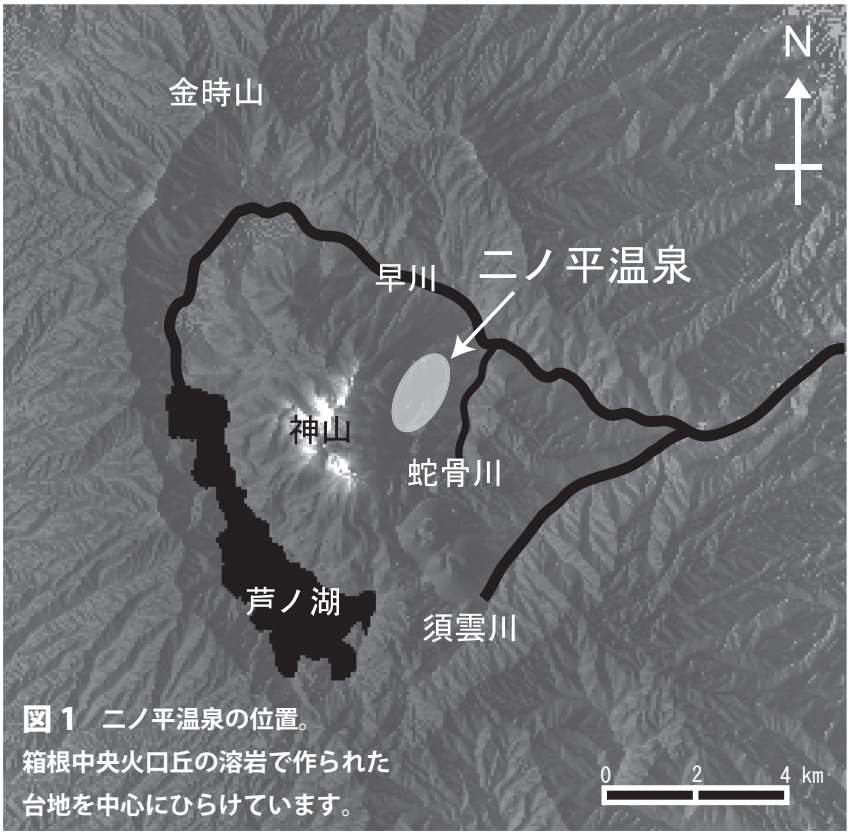

図 1　二ノ平温泉の位置。
箱根中央火口丘の溶岩で作られた台地を中心にひらけています。

でできたのが大平台、二度目に叩かれてできたのが二ノ平だと言い伝えられています。つまり、大平台の次にできた平らな地形という意味で名付けられているのです。

■二ノ平温泉の歴史

二ノ平中心地の台地で初めて温泉が掘削されたのは 1953（昭和 28）年のことです。亀の湯が井戸の深さ 301 mで温泉の開発に成功しました。その前年には強羅でも初めて温泉の掘削に成功しています。それ以前は、強羅や二ノ平では温泉の開発は難しいとされてきましたが、この成功を受けて温泉が盛んに開発されるようになりました。

二ノ平温泉全域に目を移すと、始まりは実はもう少し前に遡ります。1948（昭和 23）年に旅館営業の許可を受けた箱根小涌園は、1949（昭和 24）年に二ノ平で蒸気井の掘削に成功しました。これが二ノ平エリアでの温泉の始まりです。蛇骨川に流れ込む車沢ではかつて噴気活動が見られ、このため小涌谷という地名が付けられています。車沢沿いの二ノ平温泉もこの地熱活動の恵みによって高温の蒸気井が開発されているのです。

温泉以外の歴史にもいくつか目を向けてみましょう。

二ノ平温泉にある新田神社には新田塚があります（写真３）。新田塚は、南北朝時代に争いに敗れた南朝最後の人と言われている新田義則の墓だと伝えられています。義則は、南朝復興をねらって底倉温泉で湯治をしている際に襲われて最期をとげたそうです。

二ノ平地区では古くから水道水源の確保に様々な苦労を重ねてきました。明治時代には、車沢上流部の二ノ平字水の出口の湧水を引いていま

写真 2　上空から見た二ノ平温泉中心部付近。
彫刻の森美術館、箱根中学校などが見えます。写真上部には藤田観光の施設が数多く並んでいます。左端側は小涌谷温泉、左下側が底倉温泉です。

写真 3　新田神社。彫刻の森美術館に挟まれた細い道路沿いに静かに佇んでいます。新田塚は底倉温泉で命を落とした新田義則の墓だと伝えられています。

したが、度重なる水不足や強羅地区の開発に伴う分水などに対応するため 1931（昭和 6）年に二ノ平水道組合を設立し、水道を布設して平成になるまで自主運営してきました（写真４）。その後、組合は 1994（平成 6）年に町営水道に統合され現在に到っています。箱根町は山間部に発展した町であるため、このような水源確保問題は他の地域でも起きていたようです。

現在の箱根登山鉄道の彫刻の森駅（写真５）は、1972（昭和 47）年まで二ノ平駅という名前でした。日本で初めての屋外展示を行った箱根彫刻の森美術館館が 1969（昭和

写真 4　二ノ平水道組合の石碑。
昭和 6 年の水道布設を記念して立てられました。「奉賽水神」と記されています。

写真 5　彫刻の森駅。県道に沿った平地に駅があります。箱根登山鉄道では写真のような古くからの車両もまだまだ現役で走っています。

44）年に二ノ平地区に開館したことで二ノ平駅は彫刻の森駅と改称されました。また、大正時代には、二ノ平から出発し小涌谷、芦之湯を経て芦之湖畔に到る鉄道の計画があったそうですが、残念ながら、関東大震災などの影響で計画は立ち消えてしまいました。

箱根町内には、2000 年代まで湯本中学校、明星中学校、仙石原中学校の 3 つの公立中学校がありましたが、生徒数の減少などにより、2008（平成 20）年に一つの中学校に統合されました。統合でできた箱根町立箱根中学校は箱根で唯一の公立中学校です。箱根中学校は、二ノ平の旧明星中学校の敷地に開設され、箱根町各地から中学生が毎日元気に通学しています。

■二ノ平温泉の現状

二ノ平温泉は、中央火口丘に近く、箱根の中でも火山活動の影響が比較的大きいエリアなので、小涌谷や強羅などと同様に高温の温泉が湧出しています（写真 6）。

写真 6　源泉での温泉水の調査風景。
80℃以上と高温であるため手袋をして作業をしています。

写真 7　蒸気井での調査風景。
温泉は沸点を超える高温のために水蒸気となって噴き出しています。

そのために蒸気井も地域の南西側で数多く開発されており、箱根小涌園などで活用されています。

蒸気井とは、読んで字の如く、温泉水ではなく水蒸気を出している温泉井戸のことです（写真７）。地中の温度が高いと、温泉は液体でなく水蒸気として地表に出てきますが、温度が異なるだけで同じ温泉であるということには変わりはありません。ところが、温度が高すぎてそのままでは入浴できませんので、蒸気に冷たい地下水を混合したりすることによって温度を下げてから温泉として利用しているのです。ちなみに、箱根温泉で蒸気井が掘削されているのは、二ノ平温泉のほか大涌谷温泉、早雲山温泉、湯ノ花沢温泉、姥子温泉などです。

2017（平成 29）年３月末現在、箱根温泉の源泉は全部で 346 ヶ所ですが、二ノ平温泉にはその約９％にあたる32源泉があります（図２）。そのうち、９源泉が蒸気井です。二ノ平温泉にある宿泊施設は 13 軒、公衆浴場は３軒です。

2007（平成 19）～ 2008（平成 20）年に二ノ平温泉の 19 源泉で行われた調査結果の平均値では、温度は 65.7℃、揚湯量は１分間に 64 リットル、pH は 8.3 でした（表１）。なお、この結果には蒸気井のデータは含まれていません。

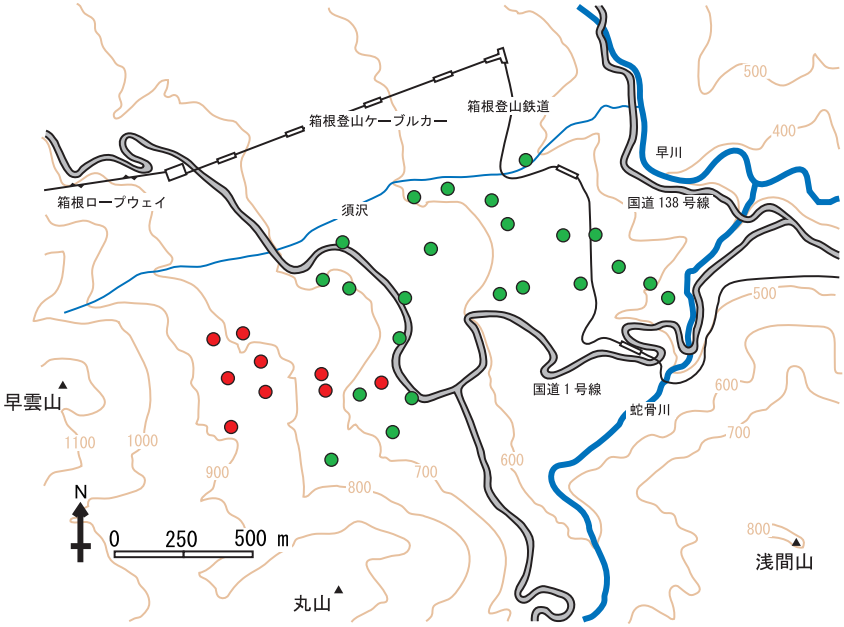

図２　二ノ平温泉の源泉分布。2017（平成 29）年現在。丸印が温泉井です。そのうち赤色の丸印は蒸気井を表しています。

表１　二ノ平温泉の平均値。2007（平成 19）～ 2008（平成 20）年の調査による 19 源泉の平均値です。

項目	平均値
温度（℃）	65.7
揚湯量（L/min）	64.
pH	8.3
電気伝導度（μS／cm）	2083.
ﾅﾄﾘｳﾑｲｵﾝ（mg/L）	394.
ｶﾙｼｳﾑｲｵﾝ（mg/L）	47.7
塩化物ｲｵﾝ（mg/L）	581.
硫酸ｲｵﾝ（mg/L）	107.
炭酸水素ｲｵﾝ（mg/L）	131.
ﾒﾀｹｲ酸（mg/L）	172.
ﾒﾀﾎｳ酸（mg/L）	27.4
成分総計（mg/L）	1495.

■二ノ平温泉の泉質

二ノ平温泉の主な泉質は、ナトリウム－塩化物泉と単純温泉です。温泉に溶けている成分の総計は 300 ～ 6000mg/kg 程度で、主な成分は食塩です。周辺の地域と同様に高温の温泉ほど温泉に溶けている成分の量が多くなる傾向があります。

二ノ平の温泉は強羅潜在カルデラ構造で湧出する食塩泉で、隣接する強羅温泉などとほぼ同じ泉質を持っています。強羅潜在カルデラ構造で湧出する温泉は、潜在カルデラ内を上昇してくる高温で高濃度の食塩を含んだ熱水に、この地域で降った降水が元となった地下水が混合してできあがっていると考えられています。そのため高温の温泉ほど食塩の量が高くなっているのです。

火山地域の温泉というと、地下の熱いマグマから温泉水が出てきているイメージを持つ方が多いかと思いますが、実は温泉に含まれる水のほとんどは降水が元となっていて、そこにマグマ由来の熱や成分などが加わって出来ているのです。

今回は、二ノ平温泉について簡単に紹介しました。次回は、強羅温泉について紹介します。お楽しみに。